

✿ 平成24年 年頭のご挨拶 ✿



松井大悟

一般社団法人 日本非開削技術協会 会長

新年明けましておめでとうございます。

平成元年に設立されました日本非開削技術協会（JSTT）の理念は、「ガス、下水道、水道、通信、電力などの地下パイプラインの調査、検査、建設、維持管理及び地下探査等に関する非開削技術の交流により、我が国の地下利用技術の進歩に貢献し、その安全性の向上を図り、広く公共の福祉に寄与することです。さらに海外との交流を図り、非開削技術が世界中に普及することに貢献していくのも理念の大きな柱です。JSTTは設立以来23年におよぶ活動を続けてまいりました。平成21年より一般社団法人として新たな出発をし、4年目を迎えました。非開削技術普及などの公益事業を一層充実させ、今後は公益法人への道を目指し努力をいたしたいと思っております。

昨年は東日本大震災が発生し、地下の施設も多くの被害を受けました。その全貌は未だ完全に明らかになっていません。例えば、下水道管路の目視による第1次調査では、対象地域管渠総延長66,100kmのうち、約960kmで被害を受け被災率は約1%でした。私としては、被害率が少ないように感じましたが、逆に地下の安全性も指摘されたかもしれません。今後の調査に期待します。特に地盤を乱さない非開削技術が採用された施設の状況に注目しています。しかし、地盤の不安定な箇所、例えば地盤が液状化した区域が多い千葉県浦安市では総延長290kmのうち、10%以上の34kmが被災しました。これらの被災状況につきましては、昨年7月に非開削技術協会の講演会で速報しましたが、今後ともフォローしていきたいと思っています。いずれにいたしましても今回の災害の復旧に多くの会員が関与されております。各会員の今後の貢献とご活躍を祈念しております。

昨年の第22回非開削技術研究発表会では22件の応募があり、これを5部門に分けて発表して頂きました。この発表会では日本の非開削技術の管路内外からの探査・調査技術、管更生、大中小口径の推進工法の実例紹介・研究開発等、非常に高度で多くの分野をカバーする貴重な論文集を制作することができました。これらの論文はタイ

トル、著者名、アブストラクトを英文の電子情報でホームページに掲載し、英文のテクニカルタームで検索もできます。今後ホームページの海外への情報発信の大きなキーワードになることが期待されます。今後はさらに設立以来の全論文を掲載し、英文化も図り、会員の皆様の活動に寄与したいと思っております。

国際活動につきましては、一昨年アジアから中国、シンガポール、トルコが新たに加わり、従来の日本、香港、台湾、オーストラリアと7カ国となりました。非開削技術の新たな展開がアジアにおいて始まろうとしている、その息吹を感じました。これらの国の中でシンガポール、トルコとJSTTとの間に技術の交流協定を締結し、昨年5月中国非開削技術協会の総会に出席し、日本と中国の間で技術協力協定を結びました。一方日本の状況は、公共投資抑制の影響の結果、企業が新技術に対する投資に慎重になり、世界をリードしてきた日本の技術力が低下する懸念が生じています。これを取り戻すには、新たな市場が必要です。私は日本のこれからの非開削技術の市場はアジアにあり、そしてアジアの人々に寄与できる非開削の新技术が求められていると思います。

今年のISTTの総会展示会はブラジルのサンパウロで11月に開催されます。南アメリカも経済発展の著しい地域です。2016年オリンピック、2014年サッカーのワールドカップの開催が決まり公共投資が盛んに行われています。関心のある方はぜひ参加してください。JSTTもブラジルの同協会と情報を交換し会員の皆様に提供します。

日本におきましても、今年は、東日本大震災の本格的な復興が始まる年であり、かつ震災を体験したことから、多くの社会インフラがその安全性・耐久性等の再検討が始まる年になると思います。この面において環境にやさしい非開削技術の必要性はますます高まって行くものと考えておりますし、またこの方向を目指すしか、日本の将来はないとも言えます。本年が会員の皆様におかれましても、この流れに乗り新しい飛躍の年としていただきますことを祈念して私の年頭のご挨拶と致します。